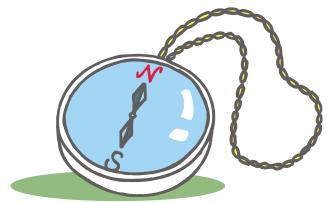


羅針盤



第 23 号

令和5年11月6日(月)

◆ 素直に、情熱を持ち、そして、明るく

新しい物事を発見する、あるいは、新しい機器を作り出すといったようなことは、誰にとってもそうは簡単にはできるようなことではありません。絶対に諦めないといった強い気持ちを持ち続け、ブレることのない信念や姿勢を持っていることで、幸運の女神が訪れると考える人もたくさんいます。有機化学の権威で文化勲章を受章されたこともある向山光昭（むかいやまとあき）先生は、学生たちに向けて授業の中で「実験結果をありのままに見る素直さと、絶対に成し遂げてみせるとう情熱、そして、何度も失敗したとしてもめげない明るさ。この素直さ、情熱、明るさが成功するための条件です」といったことを必ず話されます。これらの目の前の出来事を素直に受け止める、情熱を持ち続ける、そして、常に明るい気持ちを持ち続けるといった3つのことが成功へと導かれているうえで大事なことであることは、有機化学の分野に限ったことではなく、おそらくどのような職業分野の人にでもあてはまる法則ではないでしょうか。そして、自分自身が予測した出来事ではないことが起こったときにこそ、失敗したことばかりに目を向けるのではなく、なぜそのようなことになってしまったのかということを突き詰めていくことで、その理由が明らかとなり、そこから新たなる発見があり、発想が生まれ、物事の本質を見極める力といったものが養われていくのではないでしょうか。生徒の皆さんには、理由もわからないままに次に進み行くのではなく、やはり、素直に物事を見つめなおし、決して情熱を忘れることなく、明るい気持ちで前へ前へと進み行くことが、最大の解決策であることに気づくことのできる人であってほしいと思っています。



◆ 百万一心（ひゃくまんいっしん）の教え

「百万一心」この言葉は、戦国時代の大名として有名な毛利元就（もうりもとなり）が現在の広島県安芸高田市に位置する吉田郡山城の拡張工事の際に、それまでの築城の際の風習であった人柱の代わりとして使った巨石に「百万一心」と彫らせたことが始まりだそうです。この巨石に彫り刻まれた「百万一心」という言葉の教えとは、「百」の字の一画を省いて「一」と「日」に分けて「一日」とし、「万」の字を書き崩して「一」と



「力」に分けて「一力」として、「一日一力一心」とすることで、「一」は「同じく」の意を表し、「日を同じく、力を同じく、心を同じく」と説いて、「みんなが力を一つにして、一つの心になってやれば、どんなむずかしいこともできないことはない」という意味で、この言葉を使って「一致団結」や「協力」といったことの大切さを家臣たちに言い聞かせたそうです。この言葉は、私たちにも協力することの大切さを投げかけてくれているはずです。

